

産業経営研究所主宰 シンポジウム

2011年12月10日 13:00~14:30 会場:S201

九州のバイタル・スモールに見るマーケティング戦略の特性

バイタル・スモールとは、巧みなマーケティング戦略を展開して、素晴らしい業績をあげている中小企業のことです。ここに紹介する企業はそれぞれの産業分野で目覚ましい活躍をしている九州の中小企業です。その示唆に富む、巧みなマーケティング戦略の特色を、以下に掲げる3人の経営者から直に汲み取ってください。

パネラー（あいうえお順）

1（有）佐賀ダンボール商会 社長 石川慶蔵 氏

有田焼の産地として有名な、佐賀県有田町に立地する同社は、有田焼の窯元が主たるお得意様である。その有田焼は長引く不況の中で売上不振に陥っている。石川社長は産地の振興を図るため、近年、豪快な新製品戦略に打って出た。

それは世界の富裕層をターゲットとする、**有田焼万華鏡**と、**有田焼万年筆**の開発である。

2（株）RKK コンピューターサービス 元社長 竹村正章 氏

同社は熊本市に立地する、コンピュータ・ソフト開発の会社である。同社元社長の竹村氏は社長時代、独自のソフト開発に全社をあげて取り組み、自治体向けシステムと、金融機関向けシステムの2本柱で事業を展開してきた。2007年度には**91億3千万円（前年比約35%増）**という素晴らしい業績を達成している。その秘訣は何であろうか。

3「道の駅」水辺の郷おおやま 駅長 山内清豪 氏

大分県日田市大山町の「道の駅・水辺の郷おおやま」は、第3セクターの「おおやま夢工房」を経営主体として、好業績を達成している。大山町内に設けた「道の駅」で農産物の直売事業、洋風バイキング・レストラン事業を展開するとともに、**福岡市を主たるターゲット都市**に設定し、西鉄香椎駅に隣接する共同店舗内に**アンテナショップ**を設け、攻めの経営を行っている。

コーディネーター： 山本久義

（商学部 教授兼、経済・ビジネス研究科 現代ビジネス専攻 博士前期・後期課程 指導教授）

共同研究者（あいうえお順）

青木 幹太、齋藤 實男、高木 昇、平野 英一、米光 靖